


# 2022年3月期 第1四半期 決算説明資料

 ユシロ化学工業株式会社 TYO 5013

2021年8月



A dynamic splash of water droplets and ripples, rendered in a light green color, set against a darker green background. The splash is positioned on the right side of the slide, with droplets of various sizes and shapes, some appearing to be in mid-air and others just touching the surface.

# 2022年3月期第1四半期 決算業績概要

Results

## 2022年3月期第1四半期 業績概要（連結）

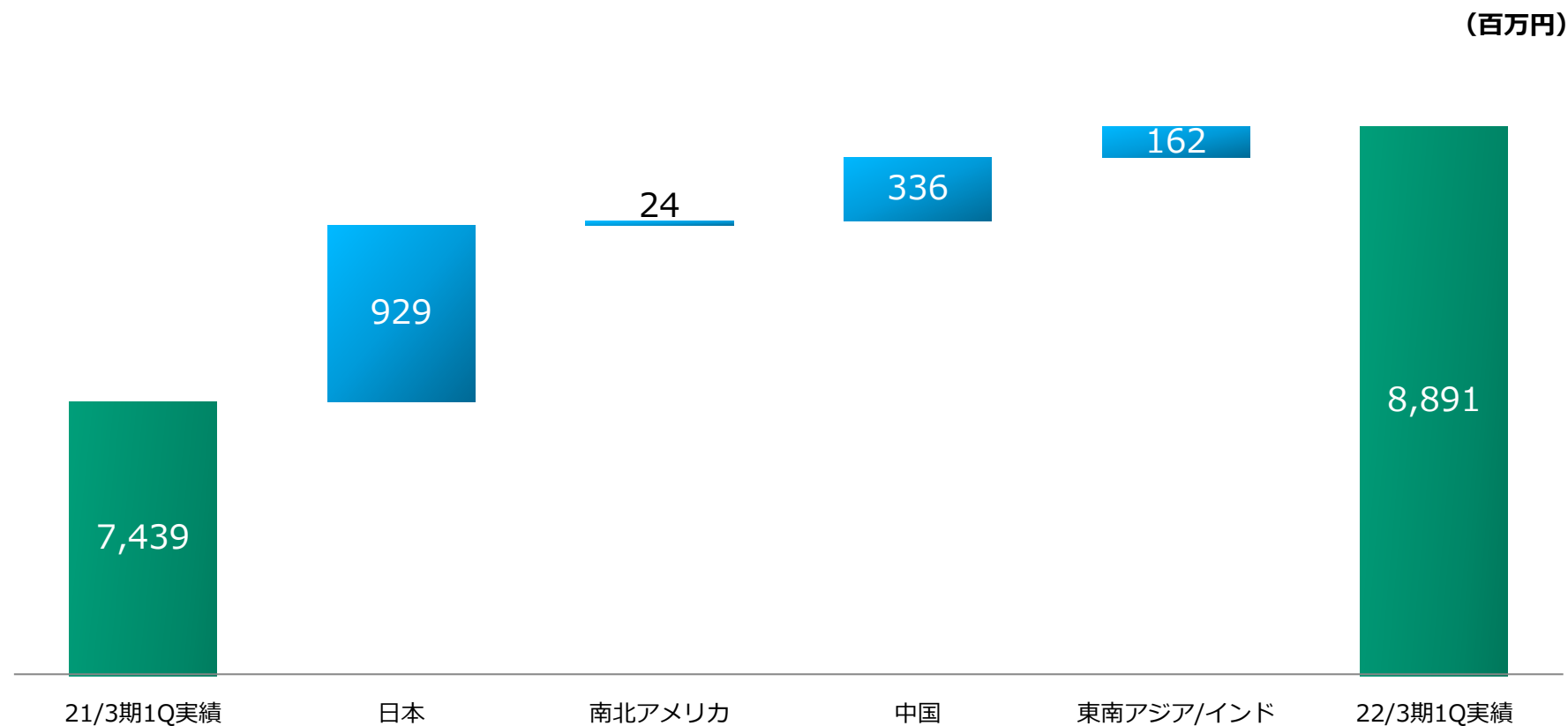
- 売上高は、主要顧客である自動車メーカーで半導体不足の影響がありましたが、生産台数は順調に回復しており、前年同期比19.5%の増収。
- 営業利益は、売上高が増加したものの、経費が前年同期並みであった為、前年同期比473.3%の増益。
- 経常利益は、営業利益の増加に加え持分法投資利益が増加したことで、前年同期比219.6%の増益。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、特別利益の計上もあり、前年同期比253.7%の増益。

(百万円)

	21/3期1Q	22/3期1Q	前期比	
			増減額	増減率
売上高	7,439	8,891	+1,452	+19.5%
営業利益	92	527	+435	+473.3%
経常利益	227	726	+499	+219.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	161	570	+408	+253.7%

## 2022年3月期第1四半期 セグメント別売上高増減

- 各セグメントとも、新型コロナウイルス感染症の影響から回復傾向。
- 南北アメリカセグメントは、全ての子会社の現地通貨建ては増収も、円高により小幅な伸びに留まる。

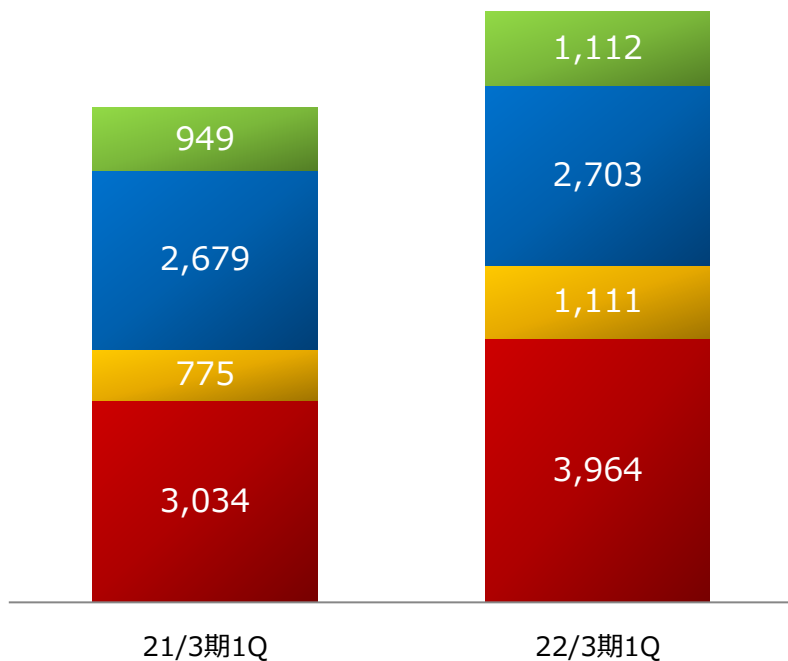


# 2022年3月期第1四半期 地域別売上高

- 国内：得意先の自動車メーカー等の順調な回復により増収。
- 海外：コロナウイルス感染症からの回復状況は、各国により差があるものの、全てのセグメントで増収となる。

セグメント別売上高（百万円）

■ 日本 ■ 中国 ■ 南北アメリカ ■ 東南アジア/インド

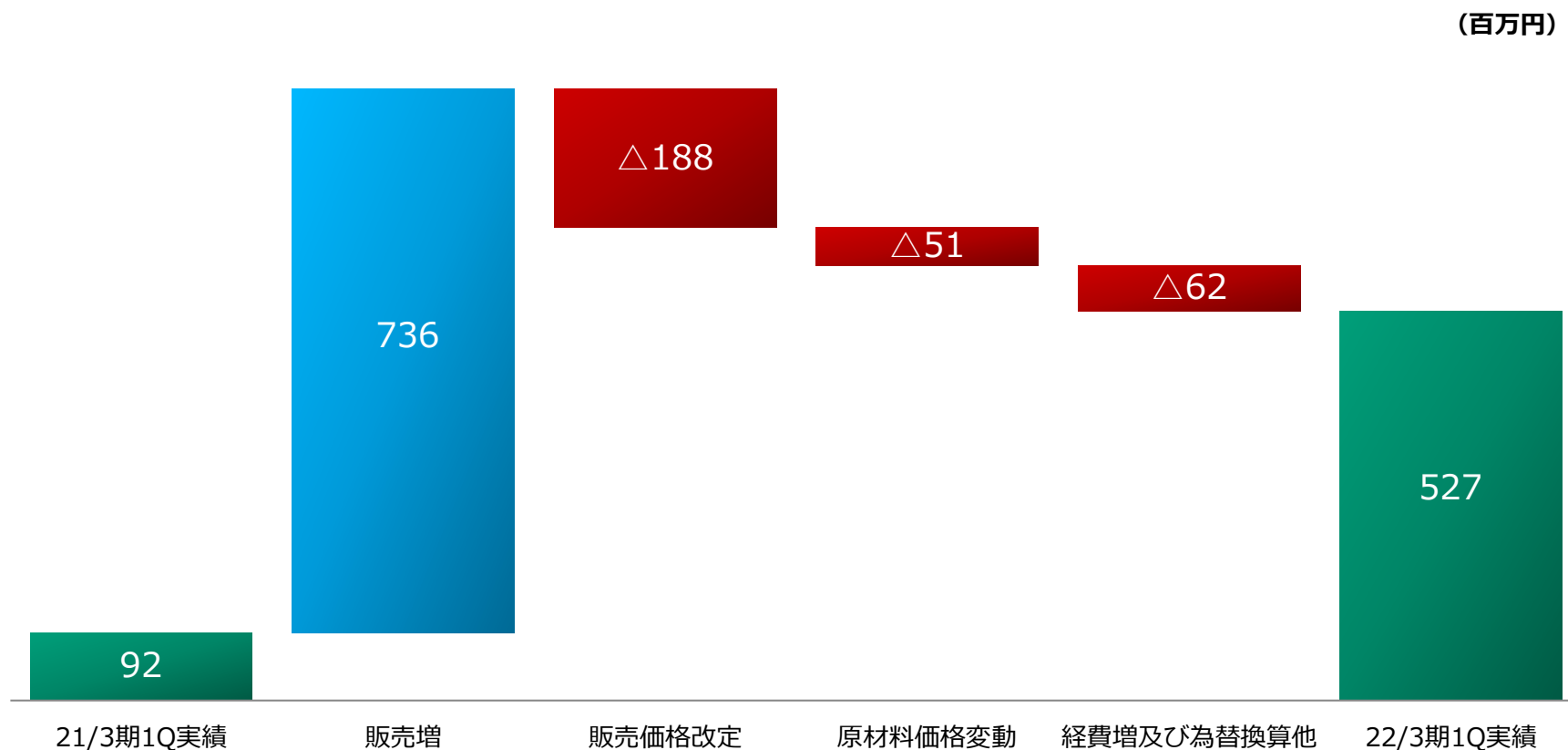


拠点別売上高（百万円）

拠点	21/3期1Q	22/3期1Q	増減率	
日本	3,404	4,407	+29.5%	
アメリカ	アメリカ全体	2,281	2,310	+1.2%
	うち QualiChem社	(1,404)	(1,379)	△1.8%
メキシコ	256	270	+5.7%	
ブラジル	196	195	△0.5%	
中国	917	1,231	+34.3%	
タイ	459	466	+1.4%	
マレーシア	210	250	+19.1%	
インド	46	198	+329.4%	
インドネシア	283	274	△3.0%	

## 2022年3月期第1四半期 営業利益（連結）増減要因分析

- 販売価格の改定による減益要因があったものの、主要顧客である自動車メーカーの順調な回復が、当社の販売増に繋がり大きく増益。

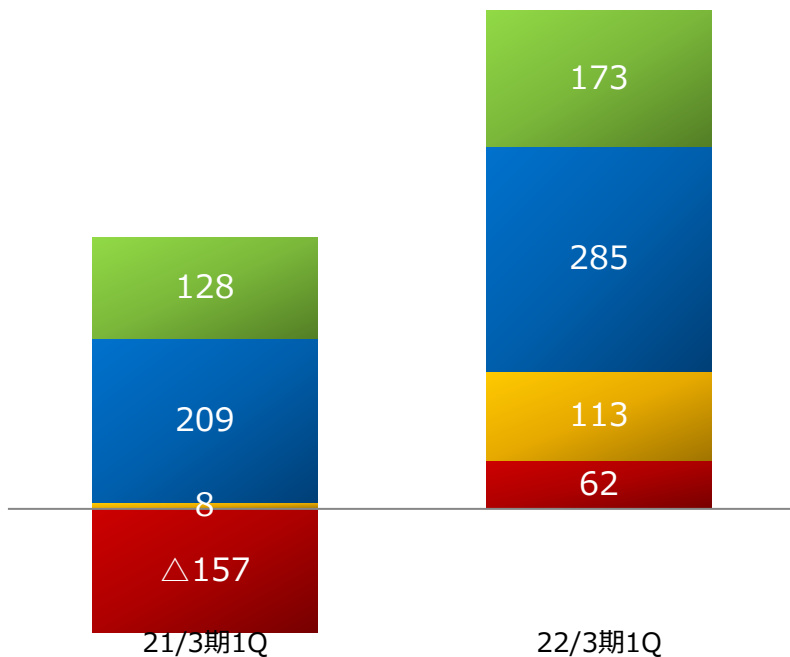


# 2022年3月期第1四半期 地域別営業利益

- 国内：経費が前年並みであったことで減益額が縮小し、セグメント利益では黒字回復。
- 海外：売上高同様、各国で差があるものの、メキシコ、ブラジル、インドネシアを除き増益。各セグメント利益も、大きく回復。

セグメント別営業利益（百万円）

■ 日本 ■ 中国 ■ 南北アメリカ ■ 東南アジア/インド



拠点別営業利益（百万円）

拠点	21/3期1Q	22/3期1Q	増減率	
日本	△229	△8	-	
アメリカ	アメリカ全体	190	285	+50.0%
	うち QualiChem社	(112)	(149)	+33.0%
メキシコ	35	29	△16.5%	
ブラジル	2	1	△48.5%	
中国	21	127	+496.7%	
タイ	83	89	+7.6%	
マレーシア	26	45	+67.5%	
インド	△18	16	-	
インドネシア	68	57	△16.2%	



# 2022年3月期 業績予想

Forecast



©2021 YUSHIRO CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.  
All Rights Reserved.



## 2022年3月期 業績予想（連結）

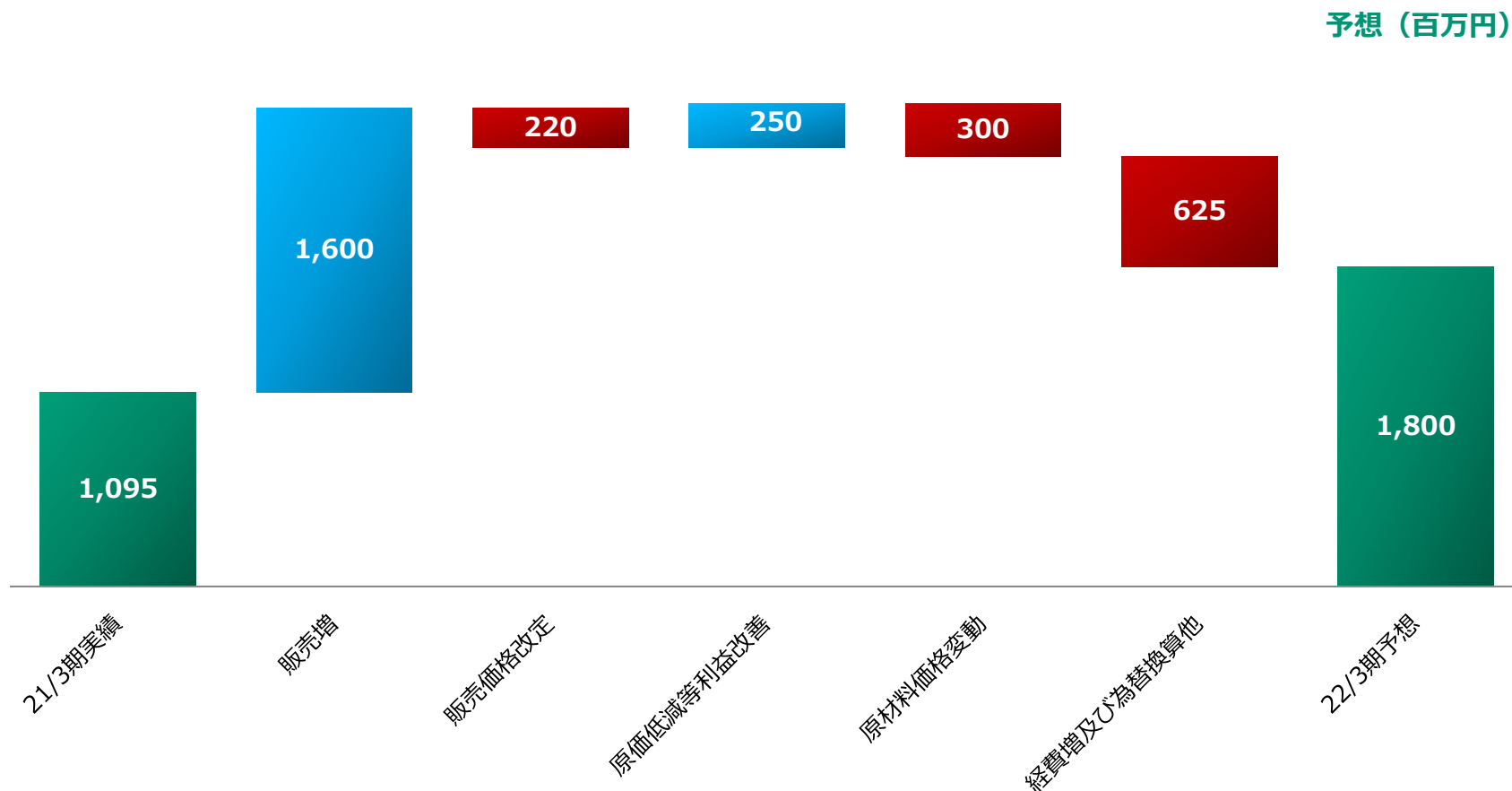
- 売上高：自動車生産の回復に伴い順調に売上高は回復に。
- 営業利益：原材料価格上昇のリスクはあるが増収効果により増益に。

（百万円）

	21/3期実績	22/3期予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	31,661	36,000	+4,338	+13.7%
営業利益	1,095	1,800	+704	+64.3%
経常利益	1,517	2,100	+582	+38.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	978	1,300	+321	+32.9%

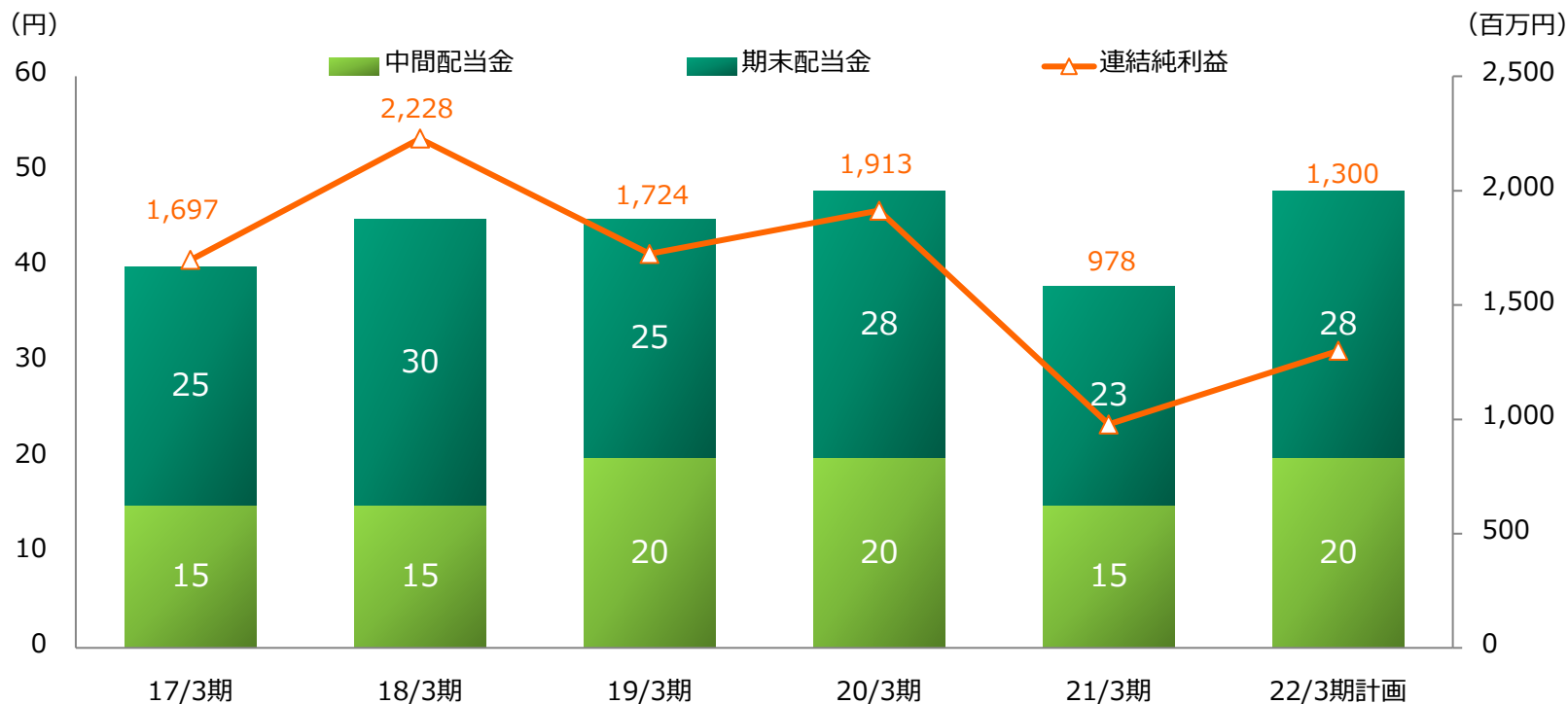
# 2022年3月期 営業利益（連結）増減要因分析

- 販売価格改定、原材料価格変動、経費増及び為替換算他のマイナス要因はあるものの、国内及び海外の自動車生産台数の回復に伴う販売増及び原価低減等利益改善の推進により、増益を見込む。



# 株主還元

- 株主に対する利益還元を経営の重要施策とし、安定的・持続的に配当を行い、連結配当性向を30%以上とする。



配当性向 (連結)      32.2%      27.4%      35.4%      34.1%      52.8%      50.2%

純資産配当率 (連結)      2.0%      2.1%      2.0%      2.2%      1.7%      2.0%

1株当たり配当金      40円      45円      45円      48円      38円      48円



## 当資料取扱い上の注意

当資料に記されたユシノの現在の計画・見通し・戦略等のうち歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報から得られたユシノの経営者の判断に基づいた、将来の業績に対する見通しであります。従いまして、これら業績の見通しのみにより全面的に依拠されることは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与え得るリスクや不確定な要素には、以下のものが含まれます。

- ①ユシノグループの事業環境を取り巻く世界情勢
- ②世界の原油価格動向
- ③米ドルを中心とした為替レートの変動
- ④偶発事象 等

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確定な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでユシノをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。